

年頭挨拶—2011年1月 附属病院長 須加原 一博

新年あけましておめでとうございます。

病院長として2年9ヶ月が過ぎました。昨年は、特に大過なく皆さんのご協力により、穏やかな新年を迎えることができました。

病院経営でも、これまでと違い、10年来の診療報酬プラス改定や7：1看護体制の確立などにより、加えて、各診療科の先生方はもちろん、看護師や各種コメディカルの皆さん、事務系の皆さんの、そして副病院長や病院長補佐の先生方のご支援、ご協力により、収益のあがる経営ができておりますことに、深く感謝申し上げます。

これまで、病院長として、「如何に大学病院としての使命、役割を果たすか、大学病院の存在意義を示すか」ということを第一とし、**地域医療機関との連携強化**や皆さんの「**働く環境整備の充実**」を図ることを、基本方針としてきました。残された期間をその達成に向かって努力したいと考えております。

幸い少しずつではございますが、皆さんのご支援により進歩し改善されてきていると確信しております。

先ず「**骨髓移植センター**」が職員の純増とともに設置できたことや、**日本病院機能評価機構 Version 6**の認定を取得することができたことは大きな進歩であったと考えております。皆さんが一致団結して努力して頂いたことは、病院全体として大きな意義があったと思っております。病院機能評価から不十分どころも明らかになり、早急にその整備が必要と考えています。さらに、少し無理をして、**集中治療部を2床増床**し、円滑な救急患者の受入れ、重症患者の手術増加や高度先進医療の提供に対応できるように改善しました。その他、県内唯一の特定機能病院に加え、がん診療連携、エイズ治療や肝疾患診療連携の拠点病院として、大学病院の役割を充分発揮して頂いていることに感謝しております。

附属病院長の役職として、県医師会の学術担当理事を務めさせて頂いております。県医師会を通じて、県内の**地域医療機関との連携強化**に努めて、沖縄県の**地域医療再生事業**として、県内の主要な臨床研修病院が参加した**クリニカル・シミュレーションセンター**の大学病院内設置およびこれを運営する2つの**寄附講座**が設置され、23年度内に完成する予定であります。**教育研修機関**として大きく発展することを期待しているところです。

一方で、予てから増収策として、鉄骨2階建を立て、これまで不十分であっ

た卒後研修センターと血液浄化部の拡張、重症患者管理の充実を図る予定でしたが、これを実行します。できれば新たに手術室を1室新設できればと考えております。併せて放射線科の村山教授の努力もあり、**機能診断（PET）センター**の着工も始まり、質の高い医療の提供ができるようになると期待しております。

働く環境整備については、まだ殆ど進んでおりませんが、事務部長、総務課長ら事務系の職員の努力もあり、専門医取得後一定期間経験を積まれた先生の**病院助教**として採用のほか、23年度から病院収入による雇用ができるようになります。診療情報管理士をはじめ病院の各種認定基準に必要な職種の採用を中心に、専任産業医などを含め補充・整備していきたいと考えております。

さらに、医師の過重労働軽減のため、あるいは緊急手術や看護師を含めた繁忙部署に対する各種手当なども整備できるようになります。今後はできるだけ皆さんのモチベーションがあがり、個々人が主体的かつ積極的に新たな資格を取得し、質の高い医療提供ができるように、支援・補助をして環境整備の充実を図っていききたいと考えています。

医療コンシェルジュ、コンビニの導入や市民公開講座の実施など果たしていない事柄も多くありますが、それぞれ少しずつ進めており実行できるように努力していきます。

最後に、**大学病院の再開発整備計画**ですが、平成25年度の概算要求を目指しておりますが、5～10年後の沖縄における大学病院として、完全完結型医療提供のできる、高度先進・腫瘍センター、高度救急救命・災害センターや感染治療・制御センターなど備えた、**より高機能の新病院構想**を、現在県や政府と話し合い、鋭意検討しております。これからの若い先生方が満足できるような、夢のある病院になるよう決意を新たにしているところです。皆様のご協力をお願いし、年頭挨拶を終わります。